

ビジネス情報科 2年A組

教科	商業	科目(単位)	ソフトウェア活用(2単位)
使用教科書	ビジネス情報 新訂版(実教出版)		
授業形態	通常授業・分割授業・TT		

※分割授業とは、クラスを少人数クラスに分割して授業を行うことを意味します。

※TT(チームティーティング)とは、複数の教師がチームを組んで指導にあたることを意味します。

1 科目の目標

<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
---

2 科目の内容と授業の進め方

<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイピングの技能を高め、ビジネスの諸活動においてアプリケーションソフトを活用する業務を、短時間で正確に処理する能力を身に付けます。</li> <li>・目標とする検定試験は、全商情報処理検定ビジネス情報部門1級(9月、1月)です。</li> </ul>
--

3 学習の方法

<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間の授業を大切にすることはもちろんですが、その授業を確実に理解するためにも発言や質問を積極的にすることが大切です。</li> <li>・練習問題を繰り返し行い、実習問題、過去検定問題などを活用し、いろいろな問題解決方法を学びます。技術や技能だけでなく、発想力や創造力も必要です。また、仕事の効率、能率を考え、正確性に加え、短時間で処理する能力を身に付けます。</li> <li>・コンピュータに関する知識や用語を理解するためには、積み重ねた学習が必要です。何度も問題を繰り返すなど、予習と復習が必要です。</li> </ul>
---

4 課題・補習について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時、問題集の点検をします。</li> <li>・検定試験の前には、希望に応じて補習を実施します。</li> </ul>
--

5 資格・検定試験

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全商情報処理検定ビジネス情報部門 1級</li> <li>・全商ビジネス文書実務検定 1級・2級</li> </ul>
---

6 観点別学習状況の評価のポイント

知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>企業における情報システムとプログラミングの概要について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。</p>	<p>企業における情報システムとプログラミングの意義と課題について、企業活動の改善と関連付けて見いだそうとしている。</p>	<p>情報システムとプログラミングについて自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>

ビジネス情報科 2年A組

教 科	商 業	科目(単位)	ソフトウェア活用 (2単位)
-----	-----	--------	----------------

7 年間の学習計画

月	単 元 名	学 習 の 内 容	評価方法 (課題等)
4	第1章 ビジネスと情報 1 情報化社会とビジネス 2 ネットワークとビジネス	<ul style="list-style-type: none"> <li>文書主義の原則という観点から情報化社会とビジネスを理解する。</li> <li>通信文書と帳票、社内文書と社外文書という観点から、ビジネスについて理解する。</li> </ul>	行動観察
5	第2章 情報通信ネットワークの活用 1 ネットワークの基礎 2 ネットワークの構築と管理 3 サーバ管理 4 セキュリティ管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワークの構築についての基礎的な知識から、構築に必要なネットワークの設定方法、サーバ管理やセキュリティ管理などの技術を習得する。</li> <li>ネットワーク機器の導入、コンピュータ機器の設定手順など、システムの構築や管理に関する基礎的な知識・技術を習得する。</li> <li>セキュリティ管理などの意義と役割を学び、ネットワークの安全性を維持するために必要な知識や技術を習得する。</li> </ul>	行動観察 提出物(振り返し)  前期 中間考査
6 7 8 9	第3章 表計算ソフトウェアの活用 1 集計処理 2 オペレーションズリサーチの基礎 3 ビジネス計算 4 手続きの自動化	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数のシートを利用するための操作方法や手順を理解し、アプリケーションソフトを幅広く活用する。</li> <li>グラフや表などから経営分析の視点で読み解く力、分析するための計算方法などを身に付ける。</li> </ul> <p>全商情報処理検定 ビジネス情報部門 1級</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マクロを活用し、作成したデータを簡潔に利用するための設定や、視覚的な効果などを付け、活用する力を身に付ける。</li> </ul>	行動観察 提出物(振り返し) 小テスト  前期 期末考査
10 11 12	第4章 データベースソフトウェアの活用 1 ビジネス情報とデータベース 2 データベースの利用 3 SQLの操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>データベースの特徴や活用方法を知り、仕組みを理解した上で活用する準備をする。</li> <li>実際にデータベースのソフトウェアを使い作成する。</li> <li>クエリを作成、画面に表示、レポートとして出力することにより一連の流れを理解する。</li> <li>データを検索して表示する基本操作、選択・射影・結合の仕組みを理解し、データベースを利用することができる知識と技術を習得する。</li> </ul> <p>全商ビジネス文書実務検定 速度部門1・2級 ビジネス文書部門2級</p>	行動観察 提出物(振り返し)  後期 中間考査

<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>	<p>第5章 ソフトウェアを活用したシステム開発</p> <p>1 システム開発の基礎</p> <p>2 アルゴリズムの基礎</p> <p>3 表計算ソフトウェアによる開発</p> <p>4 データベースソフトウェアによる開発</p>	<p>全商情報処理検定 ビジネス情報部門 1級</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・システム開発における代表的な開発モデル、ユーザーインターフェースについて基礎的知識を理解する。</li> <li>・表計算ソフトウェアの開発機能を利用して開発の基礎を習得する。</li> <li>・「繰り返し」や「判断」など応用的な処理を自動化するための手法を習得する。</li> <li>・データベースソフトウェアを利用し、設計書に基づいたシステムを構築する手法を身に付ける。</li> </ul>	<p>行動観察 提出物（振り 返し） 小テスト</p> <p>学年末考査</p>
----------------------------	---	--	--